

ユーター訪問看護ステーション 社会参加企画

「在宅ケアを考える」

オンライン講演会

今年のテーマは “挑戦！”

病気や障害を抱えながらも、自分らしさを見つけて生活されている
3名の方に、体験談を交えて講演していただきます。

それぞれの「挑戦」を通じて、在宅ケアのあり方を考えてみませんか？

2020年
11月8日
日曜日

参加無料

【時間】 10:00～12:00

【募集定員】 100名

【申し込み期間】

2020年10月12日～11月1日

講演会は、WEB会議アプリケーション「zoom」を利用して開催いたします。
事前にアプリケーションのインストールをお願いいたします。申し込み後に「zoom」による入室
等の案内を送付します

講師



名倉 康友 様

飯田 広明 様

辰己 貴之 様

お申し込み方法

下記URLかQRコードからお申込み下さい

<https://kokucheese.com/s/event/index/602071/>

QRコードはこちら



【お問い合わせ】 株式会社 UTケアシステム
「在宅ケアを考える」事務局 担当者:阿部
TEL:0744-20-3353

utcaresystem.kouenkai@gmail.com

『yasuの生き様』



名倉 康友 様

警察官として働いていた2008年、突然脳幹小脳梗塞で倒れる。医師により植物人間状態になるであろうとの宣告を受けるが気管切開・胃瘻造設により一命を取りとめる。懸命なりハビリと奥様の献身的な介護、温かい仲間の励ましのおかげで車いすでの外出や食事を楽しめるようになる。唯一動く左母指でスイッチを操りながら『伝の心(重度障害者の意思伝達装置)』を使って毎日ブログも綴っている。「どんな状況になってもプラス思考で前を向いていこう。笑って一日を過ごせば、その頑張った一日が明日に、そしてずっと先に繋がっていくことになる」と私は確信しています」

『QOLの向上—今までとこれからに向き合って』



飯田 広明 様

1974年生まれ。合格率7%の国家資格である通関士や、さらに難関である国際航空貨物取扱士DIPROMA(基礎・上級)、運行管理者の資格を取得。日立物流にて通関業務に携わるも2019年に脊髄小脳変性症と診断され休職を余儀なくされる。病を得ても、所属している発明学会を通し発明アイデアの製品化を検討したり、子供たちへのビデオメッセージを作成、またウクレレに挑戦し始めるなど意欲的で前向きに日々暮らしておられる。

『就労移行支援を利用して働くにつなげる』



辰己 貴之 様

1980年生まれ。関西学研医療福祉学院 作業療法学科卒業後、作業療法士として多くの方と関わってきた。36歳の時、クリプトコッカス髄膜炎を発症し、主治医からは「明日にでも急変して命があるか分からない」と宣告される。生死をさまよったが無事生還。視力を失い左麻痺と感覚障害は残ったが、持ち前の強さや前向きさ、温かい家族や仲間のサポートにより自宅生活を送りながら講演活動や母校の教壇に立つようになる。現在は復職に向けITを駆使している。「自身の体験が皆さんのこれから歩んでいく人生に少しでもお役に立てれば幸いです」